

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画A	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。） 瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	建築計画Aは、2級建築士の試験科目学科Ⅰの中で、各論・都市計画・建築史をその範囲とする。1、2年又は3年での基礎を踏まえて、2級建築士試験の合格を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・住宅建築 ・商業建築 ・文化施設 ・教育施設 ・医療施設 ・福祉施設 ・各部計画 ・建築生産 ・都市計画 ・計画各論用語 ・建築史
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験1
第23回～ ～第24回	学科試験対策	・実力判定試験2
第25回～ ～第26回	学科試験対策	・総合学力判定試験

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画B	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎(建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。) 福地 和来(設計事務所での設計監理業務の経験と、資格学校での講師業の経験を活し、実務に役立つ授業を行う。)				
授業の到達目標	建築計画Bは、2級建築士の試験科目学科Ⅰの中で、原論・設備をその範囲とする。1、2年又は3年での基礎を踏まえて、2級建築士試験の合格を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・気候・空気 ・熱 ・光 ・音 ・色彩 ・空気調和設備 ・給水設備 ・排水・衛生設備 ・電気・照明設備 ・消火・防災設備 ・環境・省エネルギー
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験1
第23回～ ～第24回	学科試験対策	・実力判定試験2
第25回～ ～第26回	学科試験対策	・総合学力判定試験

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	山本 寛(設計事務所で、住宅や商業施設の設計管理業務及び資格予備校の講師に従事している経験を活かし授業を行う。) 井上 達也(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築法規は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・用語の定義 ・確認申請 ・面積・高さ ・手続き ・採光 ・一般構造① ・一般構造②
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験、個別補修
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・用途地域 ・避難施設 ・構造 ・防火区画 ・内装制限 ・建築士法 ・高さ制限 ・雑則 ・その他関連法令
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	・演習テスト ・総合学力判定試験
第50回～ ～第51回	学科試験対策	・直前対策講座

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位（102時間）	開講・履修期	2026年度・1年（前期）	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。） 篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築施工は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・ガイダンス ・契約 ・施工計画 ・管理計画 ・仮設工事 ・地盤・土工事・基礎 ・鉄筋工事 ・型枠工事 ・コンクリート工事 ・鉄骨工事 ・コンクリートブロック工事 ・ALCパネル・押出成形セメント板工事
第21回～ ～第22回	学科試験対策	・実力判定試験、個別補修
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	・木工事 ・防水工事・屋根工事 ・左官工事 ・タイル石工事 ・塗装工事 ・建具・ガラス工事 ・内装工事 ・改修工事 ・設備工事 ・施工機械・器具 ・測量 ・積算・見積
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	・演習テスト ・総合学力判定試験
第50回～ ～第51回	学科試験対策	・直前対策講座

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	学科総合Ⅰ	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	3単位(51時間)	開講・履修期	2026年度：1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	当学科の建築計画・建築法規・建築構造・建築施工の教員が担当する。当該科目の教員紹介を参照のこと。				
授業の到達目標	当学科における前期の最大の到達目標は、二級建築士合格である。その目標のための学習を、科目別及び自習形式と少人数による補習授業で実施している。				
授業の概要及び特徴	原則、講義科目であるが、自習形式又は少人数による補習講義となる。通常の授業は科目ごとに行われるが、学生個々に学習の進捗状況・到達度に差があり、特にその差は科目ごとに個人差が大きい。そこで、この授業では学生が決められた科目ではなく、自分で遅れている科目、苦手な分野などを各々で強化するための授業としている。授業には毎回、1名から数名の各担当教員が入り、学生からの質問を受けたり、1名～数名程度で補習授業を行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回～ 第26回	担当教員との質疑応答 学生同士による勉強会 1名～数名による補習講義 自習形式による学習	原則、講義科目であるが、自習形式又は少人数による補習講義となる。そしてこの授業では、学生が決められた科目ではなく、自分で遅れている科目、苦手な分野など見つけ、そこを各々で強化するための授業とする。しかし授業には毎回、必ず、1名から数名の各担当教員が入り、学生からの質問を受け、指導できる体制である。また、1名～数名程度で補習授業を頻繁に行う。学生個々の、学習の進捗状況・到達度の差をカバーするための授業とする。			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築士製図Ⅰ	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	10単位(328時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 田川 典幸（建築設計事務所で、構造設計、耐震診断業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 木村 鉄哉（建築設計事務所で、主に公共建築や大規模建築の設計監理業務で培った経験を活かし授業を行う。） 伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。） 篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	2級建築士試験の二次試験である設計製図試験のための知識・技術を修得し、本試験において必ず合格できる実力を養うことを目標とする。 授業項目順に講義・演習を行い、後半は模擬試験形式で実力を養い試験に備える。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第45回	製図試験対策 製図試験対策	ガイダンス 各図面の作図手順説明・演習 平面図 屋根・床伏図 断面図・立面図 部分詳細図 作図トライアル
第46回～ ～第80回	製図試験対策 製図試験対策	課題文の読取り手順説明・エスキス演習 課題文の読取り方の説明 エスキスに使う単位の説明 敷地の使い方(有効利用)の説明 プランニングの基本を説明 建物の想定床面積の計算 エスキスの実践
第81回～ ～第115回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・課題文の読取り・エスキス・作図 試験時間5時間で完成させるための練習
第116回～ ～第164回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・模擬試験 模擬試験形式で課題をこなし、多様な課題に対処できるように練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業研究	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸(建築設計事務所で、構造設計、耐震診断業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 神山 義浩(実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所を主宰する教員が担当する科目となる。) 石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「卒業研究」では、企画の立案、敷地の選定等を自分で行う。実際に敷地を調査し・構造・規模を決定する。役所調査も行い、法規に合うような建築設計を行う。構造、用途、コンセプト等を設定し、実務に近い建築設計(計画)ができることが目標である。スケジュール管理も行い、実務に即した演習とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	授業は演習形式を主体とするが、必要に応じて校外授業なども取り入れる。また、映像やスライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。課題制作は、個人またはグループによる制作とする。より専門的な知識と技術を生かして課題作成に当たる。役所調査等の実務演習も取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第11回～ 第15回～ 第30回	課題の要項説明 敷地調査・役所調査 企画・コンセプト エスキス① エスキス② エスキス③ エスキス④	・「卒業研究」の課題内容と要求図面等の詳細を説明する ・各自で設定した敷地の現地調査及び役所にて関連法規等の調査を行う ・企画を立案し全体スケジュールを設定、コンセプトを練り上げる ・建築士になるために勉強した専門知識を生かし、社会において今何が建築に求められているかを考察する ・コンセプト・敷地・用途・構造の設定は自由である ・既存の建築物のリノベーション、コンペ等を研究テーマとして選んでも良い
第31回	中間発表	・社会に何を提案できるかを、図面(作成途中)やスタディ模型を使い、発表する ・コンセプトに迷いが無いかをチェックし、不具合があれば指導する
第33回～ 第60回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	・必要な図面の作成に取り掛かる ・途中でチェックを受けながら、軌道修正する ・ある程度図面(パースも含む)ができてきたら、模型の作成に取り掛かる ・図面と模型、パースの整合性を確認し、食い違いは直すよう指導する ・図面と模型を完成させる
第61回～ 第64回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・コンセプトのまとめ方、発表における図面表現、模型写真の選定、及び全体の図面レイアウトを指導する
第65回～ 第66回	クラス講評会	・クラス内でプレゼンテーションを行う。 ・他の作品発表を通して、今後の研究に向けたモチベーションの向上、知識・技術の更なる向上を目指す
第67回～ 第68回	総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築企画	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	中島 智弘（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所を主宰する教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築基準法の体系で最も重要と思われる集団規定の分野で、学生の理解が難しい「日影規制」と「天空率」に的を絞って解説する。また、この二つの知識は経済行為として行われる建築の事業計画において、必須の知識でもある。実践的な事業計画の立案と、その成否のポイントとなる日影規制と天空率をセットで学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も随時取り入れる。また、スライドやDVD、実際のデジタルデータなどのサンプルなども使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	ガイダンス	建築基準法の集団規定とは・日影規制とは・天空率とは・事業収支計画とは
第3・4回	集団規定とは	建築基準法の集団規定の考え方とその主な規制について
第5・6回	集団規定の基本①	都市計画法と都市計画図の読み方①
第7・8回	集団規定の基本②	都市計画法と都市計画図の読み方②
第9・10回	集団規定の基本③	斜線制限と日影規制と天空率
第11・12回	集団規定の基本④	容積の最大ボリュームとは
第13・14回	日影規制とは	日影規制の概要
第15・16回	日影規制の基本①	斜線制限と日影規制
第17・18回	日影規制の基本②	部屋設定・カラスキームと面積について
第19・20回	JWCAD の基本操作①	JWCAD の基本操作①
第21・22回	JWCAD の基本操作②	JWCAD の基本操作②
第23・24回	JWCAD の基本操作③	測定線・時刻日影図・等時間日影図などの作成①
第25・26回	JWCAD の基本操作④	測定線・時刻日影図・等時間日影図などの作成②
第27・28回	日影規制の基本③	作成した日影図の適・否の判定
第29・30回	日影規制の基本④	容積最大ボリュームの意味
第31・32回	日影規制の基本⑤	日影規制による容積最大ボリュームの取り方①
第33・34回	日影規制の基本⑥	日影規制による容積最大ボリュームの取り方②
第35・36回	天空率とは	天空率の概要
第37・38回	計画建物とは	計画建物とは
第39・40回	適合建物とは	適合建物とは
第41・42回	天空率の基本①	JWCAD による天空図の作成①
第43・44回	天空率の基本②	JWCAD による天空図の作成②
第45・46回	天空率の基本③	JWCAD による天空図の作成③
第47・48回	天空率の基本④	JWCAD による天空図の作成④
第49・50回	天空率の基本⑤	天空率による斜線緩和の適・否の判定
第51・52回	天空率の基本⑥	天空率による容積最大ボリュームの取り方①
第53・54回	天空率の基本⑦	天空率による容積最大ボリュームの取り方②
第55・56回	建築プロジェクトと事業収支	建築プロジェクトによる事業収支計画とは
第57・58回	事業収支の基本①	事業収支計画の基本
第59・60回	事業収支の基本②	事業収支計画の重要事項について
第61・62回	事業収支の基本③	事業収支計画の立案
第63・64回	事業収支の基本④	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する①
第65・66回	事業収支の基本⑤	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する②
第67・68回	事業収支の基本⑥	具体的なモデルを使って実際に事業収支を作成する③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルデザインⅢ	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	尾辻 比呂貴（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所を主宰する教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	BIMツールとしてRevitの基本操作を習得し、建築設計の一つの要点として設計の進め方(タスクとフロー)という観点からどのようにBIMを役立つかというを説明できるようになること。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。しかし、テキストを使った講義による時間も、適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	ガイダンス	講義全体の俯瞰(講義目的の説明・BIMとは何か・実務との関係・Revitの紹介など)
第3・4回	Revitでのモデリング①	データ構成とソフトウェアのコンセプトなど
第5・6回	Revitでのモデリング②	準備作業・レベル設定など
第7・8回	Revitでのモデリング③	データ挿入・壁の作成・床の作成
第9・10回	Revitでのモデリング④	間仕切りの作成
第11・12回	Revitでのモデリング⑤	建具の配置について
第13・14回	Revitでのモデリング⑥	天井の作成
第15・16回	Revitでのモデリング⑦	グループ化・コピーについて
第17・18回	Revitでのモデリング⑧	部屋設定・カラースキームと面積について
第19・20回	Revitでのモデリング⑨	廊下とバルコニーの作成・上階の作成
第21・22回	Revitでのモデリング⑩	エントランス等の作成・階段の・パラペットの作成
第23・24回	Revitでのプレゼン①	マテリアル・方位・パースビュー・クラウドレンダリング①
第25・26回	Revitでのプレゼン②	マテリアル・方位・パースビュー・クラウドレンダリング②
第27・28回	Revitでの図面作成①	一般図の作成①
第29・30回	Revitでの図面作成②	一般図の作成②
第31・32回	Revitでの図面作成③	平面詳細図の作成①
第33・34回	Revitでの図面作成④	平面詳細図の作成②
第35・36回	Revitでの図面作成⑤	面積図の作成・断面図の作成・データ書き出し
第37・38回	Revit特有の考え方①	プロジェクトテンプレート・ビューテンプレートを知る
第39・40回	Revit特有の考え方②	ファミリー・集計表などを知る
第41・42回	小テスト	簡単な建物をRevitで組み立てる
第43・44回	実例の紹介	実務で利用されているRevitファイルの紹介
第45・46回	タスクとフロー①	タスクとフローとフローとは何か①
第47・48回	タスクとフロー②	タスクとフローとフローとは何か②
第49・50回	タスクとフロー③	タスクとフローとフローとは何か③
第51・52回	タスクとフロー④	タスクとフローの重要性和BIM①
第53・54回	タスクとフロー⑤	タスクとフローの重要性和BIM②
第55・56回	タスクとフロー⑥	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー①
第57・58回	タスクとフロー⑦	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー②
第59・60回	タスクとフロー⑧	ステークホルダーとの関係におけるタスクとフロー③
第61・62回	BIMにおける注意点①	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか①
第63・64回	BIMにおける注意点②	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか②
第65・66回	BIMにおける注意点③	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか③
第67・68回	BIMにおける注意点④	入力情報の種類と程度、どこに情報を残すのか④

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境デザイン	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高橋 翔（建築設備設計事務所にて庁舎や商業施設、病院等の設備・照明設計監理の実務に現在従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「環境デザイン」では、これまで学んだ建築・インテリアの知識を基に環境というキーワードに基づいて、実際の建築物をリサーチし、デザインを構成する環境の考え方や仕掛けを紐解いていく。特定の建築物や類似する用途等を比較するなどフォーカシングしたりリサーチにより、建築設計のより実務レベルのプロセスを学ぶ事を目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、本科で学んだ多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第10回	1. スケジュール・課題内容説	①スケジュール及び課題内容説明。 環境デザインという概念をどのように解釈するか整理する。 各々で環境に関わるテーマを定める。
第11回～ 第35回	2. 調査・分析	①各個人別にリサーチする建築物を決定する。 ②テーマに基づき、どのような視点でリサーチするのかまとめる。 ③複数回のリサーチを各自行う。
第36回～	3. 中間報告面談	各自個別に定めたテーマや視点の整理。どのような方向性でまとめるか報告を行い、各自にアドバイスをを行う。
第42回～	4. 詳細計画	①中間報告面談を経てのブラッシュアップ期間。
第50回～ 第68回	5. プレゼン・講評 最終提出	①各自まとめた内容をクラス発表。講評を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	室内研究	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	インテリアの質感・雰囲気にとって大事な要素である、光(自然光)の扱い方を学ぶ。光は、CGや画像ソフトでは自らの思いのままに加工できてしまうが、実務において実現させる空間では様々な建築的操作によって行うことになる。「光と、その独特な雰囲気は、実際にはどうすればつくり出せるのか」、それを分析することが目的である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする授業で、以下の手順による。 (1)はじめに、分析対象として、光に特徴のある事例(内観写真)を選定、その光の質感を観察・言語化。 (2)次に、その内観写真の高精度な再現を目指し、「再現模型」を作成・検討を繰り返し、模型写真を撮影。 (3)最後に、「光の取扱説明書」として、模型実験より確めた光を生み出すための要因について、レポートを作成。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	ガイダンス	授業の目的・スケジュール、前年度作品の紹介、事例の及びその資料の探し方
第7回～	事例選定・観察	分析対象とする事例の選定、その光の質感の観察・言語化
第12回～	中間提出(企画書)	模型作成に必要な図面・写真等資料の確認 選定した事例と、その光の質感についてまとめる
第17回～	模型作成	独特な光が生じる要因となるものを分析・考察するため、「再現模型」を作成 模型つくり方の検討(縮尺・素材)
第22回～		
第27回～		模型の再検討・修正
第32回～		
第37回～		再現模型の写真撮影(方角、時刻、周辺環境などに着目して調整)
第42回～		事例の内観写真と、作成した再現模型の写真とを比較し、再現精度の確認
第47回～		完成
第52回～	レポート作成	光のしくみを分析・解説する「取扱説明書」の作成 事例にみられる光の質感を実際に生み出すために必要となる要素を分析
第57回～		空間構成や開口部、敷地配置・時刻・季節(太陽との関係)、素材・材質などに着目
第68回	最終提出(模型・レポート)	再現模型、取扱説明書(レポート)の提出、展示

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	照明デザイン	開講学科	建築設計研究科	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	田中 清隆（照明デザイナーとして長年に渡り、照明デザインの業界で活躍してきた教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアスペースに欠かせないエレメントである「光(照明)」をデザイン(モデル制作・プレゼンテーション)し、アイデアからフィニッシュまで、トータルに作業を行うことで、「光と形」、「光とソライ」＝光の効果を体験・体感することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、必要に応じて「光」や「照明」の基本的な理論についての講義も行う。また、参考作品などについては、プロジェクターを使用してビジュアルな情報として与える。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 光について	①光について:作業工程についてのオリエンテーション ②課題を発表、説明後アイデアスケッチ ③照明調査及びレポート
第2回～ 第12回	2. アイディアから スタディモデル	①アイデアスケッチよりデザイン候補を数点選択し、ケント紙、スチレンボード他にてスタディモデルを制作し、おおまかに最終デザインを決めて行く。
第13回～ 第25回	3. 原寸大モデル制作	①最終デザインのサイズを検討→決定 ②素材の検討 →決定 ③光源(ランプ等)の検討 →決定 ④①～③よりモデル実制作(材料、ランプ等購入→加工→組み立て→仕上げ)
第26回～ 第40回	4. モデル講評	①完成モデルの講評会(未完成・不完全なものは手直しを命じる) ②モデルの写真撮影(各自)
第41回～ 第57回	5. プレゼン作業	①プレゼン作業(A3サイズ3枚に図面、写真、デザイン説明等レイアウト)
第58回～ 第62回	6. プレゼン講評	②プレゼン講評会(課題提出日)
第63回～ 第68回	7. 課題総評	③総評(課題返却→各自に解説→手直し)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週